# 明　細　書

平成２７年　　６月　２５日

１　作成者

住所（フリガナ）：（〒873-0355 ）

大分県国東市安岐町富清3209（オオイタケンクニサキシアキマチトミキヨ）

[redacted]

名称（フリガナ）：　　くにさき七島藺振興会（シチトウイシンコウカイ）

代表者（管理人）の氏名：　　林（ハヤシ）　浩昭（ヒロアキ）

ウェブサイトのアドレス：：http://shitto.org/

２　農林水産物等が属する区分

区分名：第四十一類　畳表類

区分に属する農林水産物等：七島イ畳表

３　農林水産物等の名称

名称（フリガナ）：くにさき七島藺表（クニサキシチトウイオモテ）

４　農林水産物等の生産地

生産地の範囲：　大分県国東市、大分県杵築市

５　農林水産物等の特性

（説明）　くにさき七島藺表の原料となる七島藺はイ草の５～６倍の強度を持ちまた、イ草の２倍以上耐焦性を持つ。そのため、柔道畳はもとより職人の仕事場や劇場の桟敷、炭鉱の住宅、北関東から東北にかけての囲炉裏を使った農家などでは欠かせない敷物だった。

【七島藺の耐焦性データ（大分県農業技術センター）】

【七島藺の強靭性のデータ（大分工業試験場）】

【大分文理大学柔道場（くにさき七島藺振興会）】

【高山陣屋の女中部屋（くにさき七島藺振興会）】

織り方の違い

一般的なイ草の畳表は引目織りで織られ、一目に二本糸が入り目が揃って織り上げられるのに対し、くにさき七島藺表は青筵とも呼ばれ筵と同じ一目に一本の糸が入る目積織りのため畳目の間が荒く織り上げられる。その為、イ草の表のような均一な美しさではなく、ざっくりとした自然な風合いが感じられる。

【イ草とくにさき七島藺表の織りの違い(くにさき七島藺振興会)】

色合いの変化

くにさき七島藺表はクリーム色から飴色に変わりイ草表と違い艶が出てきて使うほどに味わいが増す。
近年、琉球畳と言われる縁の無い畳が増えてきているが、元は古民家などで見られる七島藺を使った縁無畳から来ていて、自然な風合いが好まれ関東圏を中心に人気が高い。

【七島藺の色合いの経年変化（くにさき七島藺振興会）】

価格・相場

畳業界紙である敷物新聞社の平成27年11月20日付けの相場表では、一次問屋である産地問屋の庭先渡し値が上物で 15,000 円となり、記事にもあるように高い人気が相場を上げている。この人気の元は先にも述べたように他のイ草表とは原料も、織りも全く違う畳表であるということだ。他の地域との産地間の競争も無く全く独自な風合いが評価されている。イ草表との比較は難しいがサイズと織りに使う糸から比較すると、本間麻引きというクラスに相当する。高級ブランドの国産イ草畳表の２～３倍程度の価格にも関わらずイ草には無い独特の風合いが喜ばれ、国産のくにさき七島藺表は非常に人気が高く、年間 2,000 枚程度の出荷が限界であるにもかかわらず、10,000 枚程度の注文が寄せられている。

【藺草・藺製品相場表（平成２７年１１月２０日付け　敷物新聞社提供）】
【大分産地の状況（平成２７年１１月２０日付け　敷物新聞社提供）】

6　農林水産物等の生産の方法

## 1　くにさき七島藺表の原草の基準

くにさき七島藺表の原草は国東市産もしくは杵築市産の七島藺で以下の基準を満たした乾燥した原草を使用すること。

①原草は製織用に裁断された長さ120cm以上のものを使い、茎の太さが中庸でバラツキがなく、茎の先端と根元の太さが揃っているもの。

②虫食い、変色、折れ、などの無い原草を使うと共に、畳表の表面が均一になる様に太すぎたり細すぎるものは織り込まないように選別する。

③原草の色沢は鮮やかな銀青白色で、適当な弾力があり、製織した畳表が均質な色沢となる様に選別する。

## 2　製織の基準

高品質の表織りの出来る織機(下記①または②)により、③の織り糸を使用し国東市もしくは杵築市産の七島藺を使い目積織りで織り上げられたもの。

① 高品質の表織りの出来る半自動織機で、七島藺表の押さえの機構が二つ付いた最も後期の織機で製織したもののみとする。

② 高品質の表織りの出来る全自動織機で、七島藺表専用として改良された織機で織られたもののみとする。

③ 織り糸は全自動織機の場合１５番手以上、半自動織機は３０番手以上のジュウト麻糸とする。

【くにさき七島藺半自動織機（くにさき七島藺振興会）】
【くにさき七島藺全自動織機（くにさき七島藺振興会）】

## 3　くにさき七島藺表の出荷基準

上記の基準で選別された原草を用い、織り上げながら折れや色むら抜けや二本差しなど不具合を発生させないように注視しながら織り上げる。基準は以下の通り。

①規格　幅 95～110ｃｍ
　　長さ　200ｃｍ以上の場合、重量　一枚 2.3ｋｇ以上
　　（上記以外の長さの場合、重量は上記の基準に準じる）
②畳表にイ切れ、経糸切れ、間不足の不具合がないこと。
③七島藺栽培の生産者､製織者名、が明示されていること。
④七島藺表の織り方、長さ、幅、重量が規定通りに出来ていること。
⑤虫食い、色むら、折れ、二本差し、など無く優美に織り上げられていること。

最終製品としての形態：「くにさき七島藺表」の最終製品としての形態は七島イ畳表である。

7　農林水産物等の特性がその生産地に主として帰せられるものであることの理由

七島藺は、主に畳表の原料として使われ東南アジア原産のカヤツリクサ科の植物である。七島藺という名称はトカラ列島が原産地であり、当時住民が住んでいた島が 7 つあったところから名付けられた。
七島藺は、亜熱帯の植物のため高温で日照時間が長いほど生育が旺盛になるが、南にいくほど生育が旺盛になり過ぎ表皮が固くなりしなやかさに欠けるようになる。低温には弱い植物であり地下茎で冬を越すため、霜などで地面が凍結すると地下茎が損傷して、生育不良や出芽不良を招くため、平均気温が 15 度以上で、0 度以下の日が続かない温暖地が良いとされている。また、湛水状態だとベッ甲病という七島藺独特の赤い斑点がでる病気に罹りやすく植え付け後、根が活着した後は水を抜き乾いた状態にしておく事が必要である。このように七島藺栽培には日照時間が長く降水量が比較的少ない地域で冬場は霜が降りにくい気候が最適であると言える。国東半島は温暖で比較的降水量が少ない瀬戸内海式気候であり、上記の条件に合い、また、日照時間が長い割に暑すぎないという気候が、しなやかな畳表を作るための七島藺栽培に最適な地と言える。
原料である七島藺自体に耐焦性があるため、くにさき七島藺表はイ草の畳表よりも焦げにくい性質がある。
また、原料である七島藺自体にイ草よりも強度があること、草にストレスをかけにくい目積織りで織られていることから、イ草の畳表と比較して強度がある。目積織りは、筵と同じ織り方であるため、イ草の畳表で用いられる引目織りのような均一な美しさはないが、ざっくりとした自然な風合いに仕上がる。織り方に由来するくにさき七島藺表の独特の風合いへの評価は高い。

国東半島は両子山の噴火によって出来た地域であり、耕作面積が狭く、火山性の土壌で保水力が無い上、瀬戸内海式気候で雨が少ないという不毛の地だった。先人が椎茸栽培のため山頂にクヌギを植えたことで、落ち葉や役目を終えたクヌギなどで腐葉土が形成されると共に、1200 もの、ため池を山に作ることでようやく農業が可能になった。それでも猫の額ほどの圃場がほとんどであった。そんな小さな圃場にうってつけなのが七島藺だった。小さな圃場だから水の管理もしやすく、ベッ甲病という七島藺特有の病気に罹っても広域に広がることが無い。そしてなにより換金作物として冬場の農閑期に夜なべをして織り上げれば翌日現金になる。このことが、秘境と言われた地域であっても多くの若者が高等教育を受けられ、皮肉にも産地の衰退を招いたとも言える。このように江戸の初期から、昭和中頃まではこの地を支えた重要な作物であった。
このような価値のある産業であったが、過酷な農作業や、専業農家でしか栽培できないことで急激に減少、平成 21 年には 5 軒まで減り産地消滅も目前だった。その様な状況に危機感を持った県内畳店、七島藺問屋、行政、地域住民や移住者、生産者などで「くにさき七島藺振興会」を立ち上げた。振興会では、生産者の長年の経験とくにさき七島藺に価値を見いだした

移住者の知見を併せながら、350年の伝統を守りつつ、七島藺のファンのすそ野を広げるための活動を実施している。また、担い手の育成や支援も実施しており、七島藺の文化を地域共有の財産として守り育てている。

８　農林水産物等がその生産地において生産されてきた実績

東南アジア原産である七島藺がいつ日本に伝わったかはわからないが、江戸時代以前、すでに琉球（沖縄県）や薩摩藩（鹿児島県）では栽培から加工までが行われていたと考えられる。豊後（大分県）に七島藺が伝来したのは、1660年以降で、府内伝来説と日出伝来説があり、どちらも鹿児島地方の七島藺苗を持ち帰っている。持ち帰られた苗は、府内藩（大分市）・日出藩（日出町）・杵築藩（杵築市･国東市）などによって栽培が奨励され、別府湾沿岸の地域に急速に広がった。

現在に至るまでの経緯

1750～1770（宝暦・明和）には各藩の保護奨励により急増し豊後は青筵の本場となり幕末には３００万枚におよび豊後表の名で知られた。
青筵は農家の収入源と共に、藩の財源としても重要な位置を占めた。商人には権利金や毎年の運上金を上納させ農民からは税を徴収し、藩の財政を助けた。
藩は製品の規格を定め、積出検査も厳重にし、役人が出張し販路拡大や青筵の市況を探るなど品質を高めるため指導統制した。
昭和８年には七島藺試験地が設置され、昭和10年1600ｈａ生産高650万枚に達した。昭和20年代後半から社会情勢が安定し七島藺の栽培も復旧し昭和31年から33年にかけて1500ｈａ550万枚の盛況をみせ、全国一の生産を誇った。
しかしながら、大分地方は新産業都市建設、大分鶴崎臨海工業地帯の造成で七島藺栽培も自然消滅し、国東地方も柑橘振興策により転向する農家が相次ぎ、また兼業農家が増加し臨空地帯農業の振興とあいまって急速に生産者が減少した。
平成21年大分県中津市の二豊製畳有限会社が大分県の特産品であった七島藺の産地消滅を防ぐため活動開始、平成２１年厚生労働省の「ふるさと雇用再生事業」に七島藺の再生事業が採択され本格的な再生に取り組む。生産者のみならず県、市、多くの協力者を得て平成２２年１０月「くにさき七島藺振興会」を設立。
当時生産者５名の内４名は７０代以上で産地消滅寸前だったが、平成２７年６月現在、新規就農者も増え１０軒となり平均年齢も大幅に下がり産地復活に向けて活動している。

【七島藺試験地（くにさき七島藺振興会）】
【大分県でのシチトウイ栽培面積と研究指導機関の変遷（林浩昭　世界農業遺産「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」での重要特用作物シチトウイの栄枯盛衰と試験結果より）】

9　法第13条第1項第4号ロ該当の有無等

（1）法第13条第1項第4号ロ該当の有無

申請農林水産物等の名称は、法第13条第1項第4号ロに

☐　該当する

商標権者の氏名又は名称：

登録商標：

指定商品又は指定役務：

商標登録の登録番号：

商標権の設定の登録（当該商標権の存続期間の更新登録があったときは、商標権の設定の登録及び存続期間の更新登録）の年月日：

☑　該当しない

（2）法第13条第2項該当の有無

☐　法第13条第2項第1号に該当

【専用使用権】

☐　専用使用権は設定されている。

専用使用権者の氏名又は名称：

専用使用権者の承諾の年月日：

☐　専用使用権は設定されていない。

☐　法第13条第2項第2号に該当

【商標権】

商標権者の承諾の年月日：

【専用使用権】

☐　専用使用権は設定されている。

専用使用権者の氏名又は名称：

専用使用権者の承諾の年月日：

☐　専用使用権は設定されていない。

☐　法第13条第2項第3号に該当

【商標権】

商標権者の承諾の年月日：

【専用使用権】

☐　専用使用権は設定されている。

専用使用権者の氏名又は名称：

専用使用権者の承諾の年月日：

☐　専用使用権は設定されていない。

10　連絡先（文書送付先）

住所又は居所：[redacted]

宛名：[redacted]

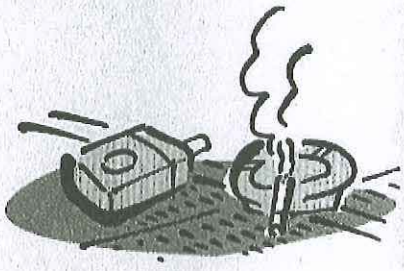
担当者の氏名及び役職：[redacted]

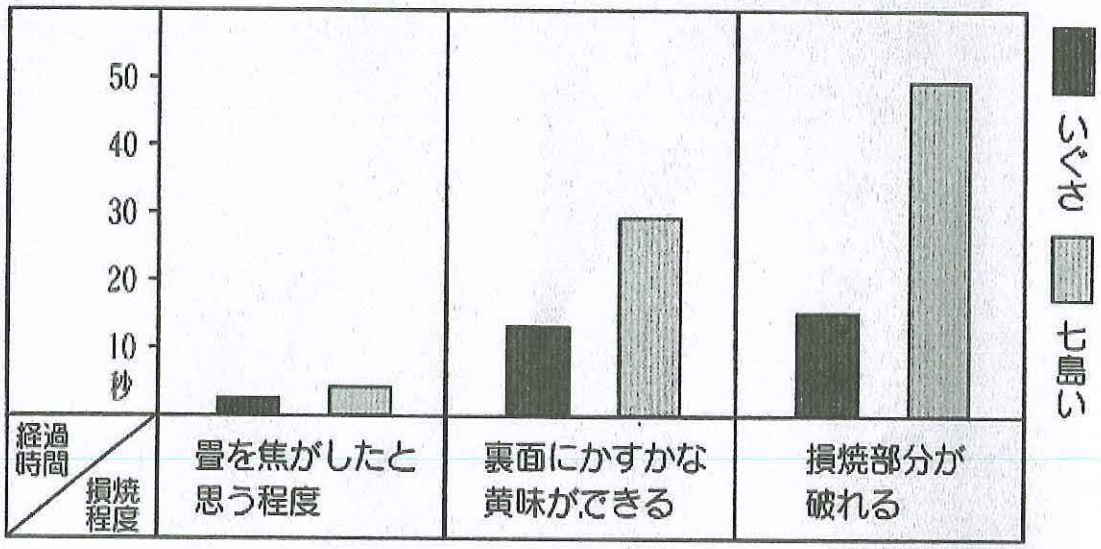
電話番号：[redacted]

ファックス番号：[redacted]

## ◆火気に強いこと

美しい畳も“たばこ”の火などで焦がしてしまっては台無しです。この点「青表」はいぐさに比較して２倍以上の耐焦性のあることが、わかっております。





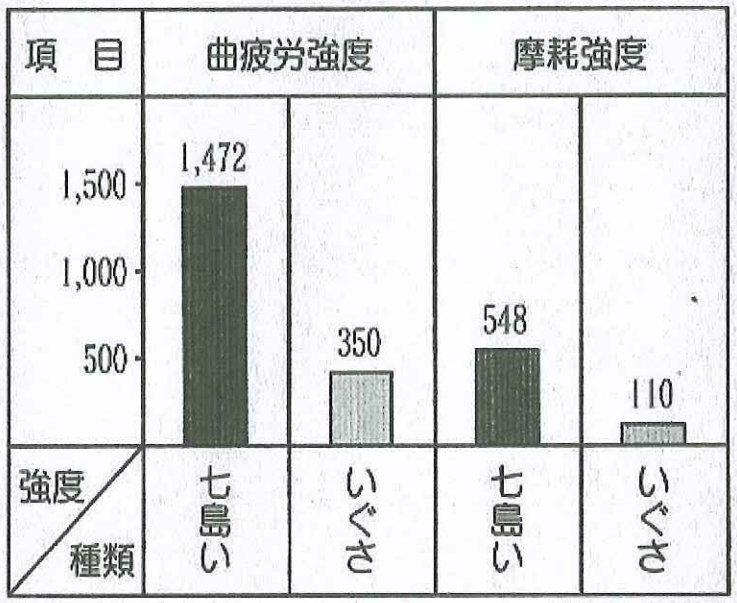

大分県農業技術センター

大分県農業技術センター

# ◆耐久力にすぐれていること

七島い（青表）は、いぐさ（丸い）に比較して強靭性に富み試験の結果では、いぐさに比較して優に5～6倍の強さを持っていることが実証されております。

（註）
七島い…10本
いぐさ…20本
について5回
の平均値



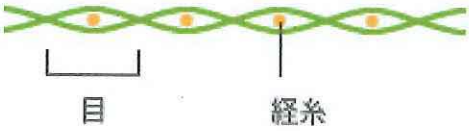

（大分県工業試験場）

大分工業試験場

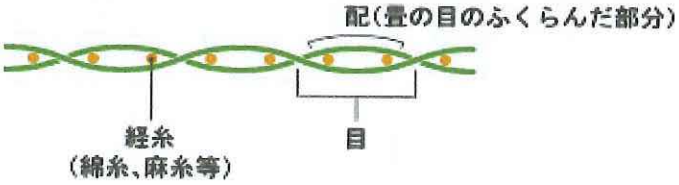
大分文理大学柔道場

高山陣屋　女中部屋

七島藺表　目積織り


目
経糸

イ草表　引目織り


配(畳の目のふくらんだ部分)
経糸
(綿糸、麻糸等)
目

新畳の色合

５年程度の色合

２０年程度の色合い

## 藺草・藺製品相場

（産地問屋産先渡し）

単位：円

### 畳表

◆熊本
ひのさらさ本間麻綿W
特選新8000
特上新7000
ひのさらさ五八麻綿W
特選新5500
特上新4500
ひのさくら本間麻綿W
特上新5600
特新 5100
ひのさくら五八麻綿W
特上新3800
特新 3300
ひのさやか五八
麻特 －
上新 2700
並新 2100
糸特新2500
上新 2200
並新 1600
麻引本間
特 －
上新 3200
並新 2900
麻引五八
特 －
上新 2600
並新 2000
下新 1700
綿引本間
特新 3200
上新 3000
並新 2500
下新 2200
五八麻綿W
特新 3500
上新 2700
綿引五八
特新 2500
上新 2200
並新 1600
下新 1150

◆中国寧波
本間麻綿W
特 2050
上 1850
中 1650
本間綿綿
特 1830
上 1680
中 1530
五八麻綿W
特 1850
上 1650
並 1500
五八綿綿
特 1580
上 1430
中 1280
本間糸引
特 1680
上 1530
中 1380
下 1230
五八糸引
特 1430
上 1280
中 1130
下 1030

◆中国四川
各種とも寧波より
中・上物200高
下物 100高

◆福岡
博多華織
本間新5700
博多華織
五八 －
博多咲織
本間新4600
博多咲織
五八 －
麻引本間
特 －
上新 3050
並新 2750
麻引五八
特 －
上新 2500
並新 1950
綿引本間
特 －
上新 2800
並新 2400
下新 2050
綿引五八
特 －
上新 2200
並新 1550
下新 1050

◆広島
麻引二本芯
特新20000
上新15000
麻引本間
特新12000
上新10000
並新 8000
麻引五八
特新 4000
上新 3000
並新 2000

◆高知
綿W本間
特上新3300
上新 2800
綿W五八
特上 －
特新 2550
上新 2150
並 －
綿引五八
並新 1400

◆石川
麻引三六
特上 5000
麻引五八
上 3800
並 2800

◆大分産琉球表
特上新15000
並尺新11500
長尺新13500
広巾新13500

◆四川産青表
並尺新 7700
長尺新 8500
広巾新 9000

### 敷

◆岡山（国産）
本間
特上 2900
特 2600
上 2200
三六
特上 2700
特 2400
上 2200
五八
特上 2500
特 2300
上 2100

◆福岡（国産）
五八
特上 2400
上 2000
並 1500
五八込
上 1300
並 1000

◆中国（諸目）
本間
特 2000
上 1600
五八
特 1700
上 1300

### 藺草

◆熊本抜藺（㌔当たり）
長藺 880
中藺 540
短藺 220

## 熊本産地 強気配

【産地概況】熊本産地では、大方の生産者でい植え準備のため、い苗こぎに着手しており、早いところでは既に植えつけたが、20日前後から植え付けを行うところが多い。織機も6～7割方は止まっているが、生産者の手持ち品もあって、農協市場への出品は一日5000枚ぐらいの出品となっている。福岡産地では植え付ける生産者も少なく、下旬頃から苗こぎに着手するが、広島産地では春植えもあり12月で推しそうだ（14日現在）。

生産農家では、い植えのため苗こぎを始めているが、植え手の都合で既に植え付けたところもあり、20日前後には大体植え付けを始める。

このため畳表の生産状況は漸減状態で、織機も6割方は休止している。

肥印 肥後畳表
肥後物産株式会社
〒869-4703 熊本県八代市千丁町駅前
TEL(0965)46-1131㈹ FAX(0965)46-1134

プにより出回り極減の見

## 大分産地 強気配

【青表】稲の収穫作業高値で完売した。

売れ行きは需要期のため表替え仕事も出て入用買い注文も相次ぐなど順調だが、12月の売れ行きが気にかかるところ。

相場は上物製品は高値ながら、下物製品は横這い状況。この先11月中は高値のまま推しそうだ。

況では、製品の出回りは甚だ少ない。

国東地域の青表が人気が高いため、新表の生産につれ受注が相次ぐものの、産地問屋筋への入荷は至って少ない。

産地問屋業者では「受注にお応えできずとても残念だ。お待ちいただいても出荷の見通しが立てず、不可能なことになりそうだ」と生産が上がらない状況をなんとかしなくてはと焦っている。

相場は品不足が甚だし

敷物新聞社提供平成２７年１１月２０日付け

込みから、相場は現状のまま推しそうだ。

## 福岡産地

### 上物高

生産農家では植付面積も少ないため、い苗こぎは下旬頃から着手の予定。このため生産はぼつぼつながら続けている。

㈱福岡県畳表市場では12日に市場を開き、五八引通表985枚、同諸目引通し401枚が出品された。問屋業者では地物新表の手当買いを進めたため、五八の上物は若干高値で完売した。

売れ行きは需要期のため表替え仕事も出て入用買い注文も相次ぐなど順調だが、12月の売れ行きが気にかかるところ。

相場は上物製品は高値ながら、下物製品は横這い状況。この先11月中は高値のまま推しそうだ。

## 大分産地

### 強気配

【青表】稲の収穫作業も完了し、新表の受注を抱えていることもあり、フル稼働を行うものの、一日に1～2枚の製織状況では、製品の出回りは甚だ少ない。

国東地域の青表が人気が高いため、新表の生産につれ受注が相次ぐものの、産地見学者からの受注も多く、産地問屋筋への入荷は至って少ない。産地問屋業者では「受注にお応えできずとても残念だ。お待ちいただいても出荷の見通しが立てず、不可能なことになりそうだ」と生産が上がらない状況をなんとかしなくてはと焦っている。

相場は品不足が甚だしく異常高値の出現となる。


中国産手織青表

株式会社 大幸物産 大分営業所
大分県国東市小原
TEL 0978-72-4747
FAX 0978-72-4746


## 広島産地

### 強気配

生産農家では、早いところは11月末頃い植えを行うところもあるが、大方はゆっくりい苗こぎを行い、12月中か年を越して春植えのところもある。畳表の生産は目下のところ問屋業者の機先においてヒネ草や新草によるフル稼働を続けている。

売れ行きは需要期のため受注も相次ぐなど順調に推移しているものの、かつてのような売れ行き状況には届かない。

相場は備後表は品不足から高値強気配ながら、広島表の下物は横這い状況。

## 岡山産地

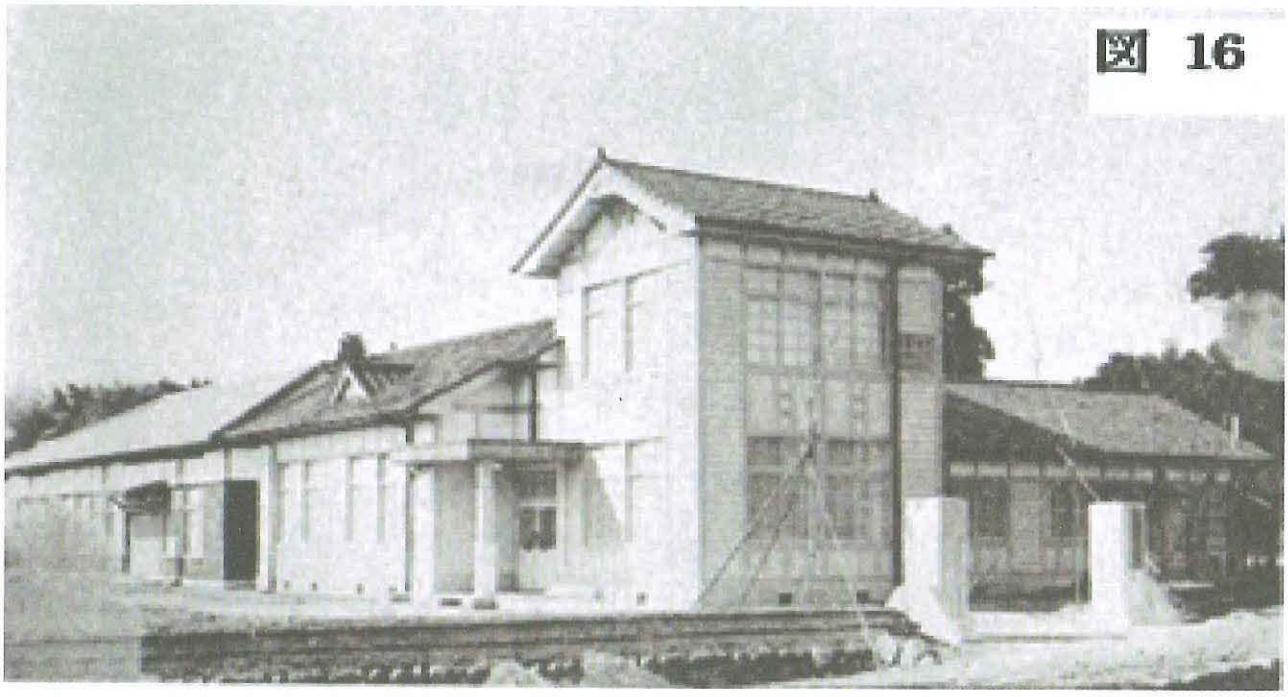
### 横這い

専業家筋では諸目の生産などぼつぼつ稼働を続けているものの、問屋業者からの受注分のため、出回りこは至らない。


敷物新聞社提供平成２７年１１月２０日付け

半自動織機

全自動織機




設立当時の、大分県農事試験場
七島藺試験地（昭和８年）

図９　大分県でのシチトウイ栽培面積と研究指導機関の変遷

1892年～1979年（阿南正・前田哲夫・本多公司（1980）[15]），1975年～1994年（農林水産省（1995）[9]，1994年～2005年（大分県農林水産部（2007）[16]）および2006年～2014年　大分県東部振興局調べ（未発表）をまとめてグラフ化した。1975年から2014年までは縦軸の拡大図を囲みにいれた。上部には，大分県の農業関連研究機関の変遷[39]を，２列目1933年より2000年まではその中でもシチトウイ関連研究機関[11, 19, 39]の変遷を示した。